



01. 記念撮影をする北白川宮

狩猟の服装である、大きなポケットの上着、ゲートル、靴に巻いた滑り止めがよくわかる。波多野御猟場監守長宅前。大正10年（1921）1月。波多野六之丞家文書追加 1-18（以下同）



02. 記念撮影をする狩猟参加者。手袋をし、銃を持つ。



03. 雲ヶ畑川沿いの家で鳩を放つ両宮。
背中から脚にかけて毛皮製のものがみえる。山伏や山作業者が座る時に敷く引敷のようである。



04. 記念撮影をする狩猟参加者。立っているのは監守か。焚火を囲い暖をとる。波多野御猟場監守長宅前。



05. 記念撮影をする北白川宮。マフラーを巻き防寒。ステッキを持つ。



06. 記念撮影をする朝香宮。波多野御猟場監守長宅前。



07. 記念撮影をする朝香宮と狩猟参加者。



08. 猟中の昼食風景。

両宮は焚火の周りで椅子に座り、弁当・汁物・茶が出されている。他の者は伐木上か、立ったままである。

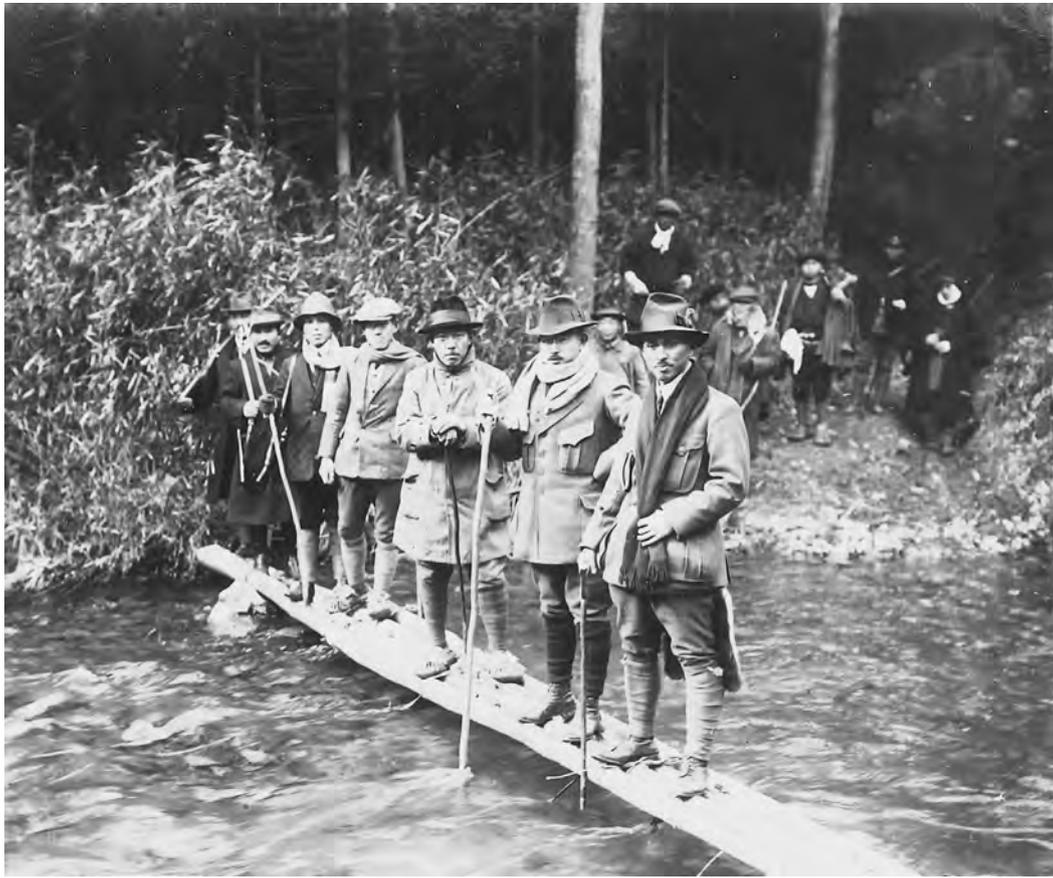


09.08 同じ場所で話しを聞く両宮。



10. 雪中の山林に座る人物。

おそらく狩猟の立場で待機する様子である。参加者はそれぞれの場所で、勢子や猟犬の追った獲物を待つ。



11. 木橋を渡る両宮。



12. 雪中の猟場で、獲物を前に記念撮影。



13. 大量の獲物を前に記念撮影。



14. 雪中を行く行列。

雪上にすでに道があり、服装から考えて猟場から帰還であった可能性がある。橋上にも人が続く長い集団である。



15. 東郷平八郎揮毫の忠魂碑の前で記念撮影。



16. 大正4年に死亡した猟犬2匹を弔う忠犬碑
揮毫は主猟官子爵織田信親、真弓地区に現存。

